

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和5年2月16日（木）

2 確認箇所

- ・ K1タンクエリア
- ・ 廃液供給タンク

3 確認項目

多核種除去設備 処理途上水の仮設移送の状況

4 確認結果の概要

1号機から3号機の原子炉に注水し、燃料デブリを冷却するために用いる淡水は、原子炉建屋地下階に溜まる汚染水（地下水を含む）から淡水化装置で塩分を除去した水を再利用することにより確保している。

汚染水対策の進捗等により、汚染水発生量が抑制されているため、原子炉注水に用いる淡水の精製量（淡水化装置による処理量）が減少し、淡水貯留タンクの貯留量が例年と比較して少ない状況が続いている。

東京電力は、「1号機PCV内部調査」^{※1}の実施に万全を期すため、また強い地震後の「PCVの水位低下事象」^{※2}時の原子炉注水量増加に備えることを目的として、処理途上水^{※3}を淡水化装置により処理することで、淡水貯留タンクの貯留量を確保するとしている。

2月13日から処理途上水を廃液供給タンク（淡水化装置の受けタンク）に既設移送配管と仮設ホースを用いて移送する作業が始まったことから、その状況を確認した。（図1）

- ・ K1タンクエリアの堰内にポンプ2基と仮設ホース（タンク～既設移送配管）が設置されていた。（写真1）
- ・ 既設移送配管と廃液供給タンクの間には仮設ホースが設置されていた。（写真2）
- ・ 現場確認時、K1タンクから廃液供給タンクに向けて「処理途上水」が移送されていた。
- ・ 各接続部（タンクと仮設ホース、仮設ホースとポンプ、仮設ホースと既設移送配管）下部には受けパンが設置され、その中には漏えい検知器が設置されていた。（写真3）
- ・ 確認した範囲では、配管、接続部、ポンプ等からの漏えいはなかった。

- ※1 1号機 PCV 内部調査：水中 ROV を用いて原子炉格納容器(PCV)の内部にある堆積物（デブリの可能性）の状態を確認するための調査。調査のために PCV の水位を一定以上に保つ必要がある。
- ※2 PCV の水位低下事象：令和3年2月13日の地震発生後に1号機と3号機の原子炉格納容器水位の低下傾向が確認された。水位を確保するために原子炉注水量を増加させる対応が行われた。
- ※3 処理途上水：多核種除去設備にて処理した水のうち規制基準値未満になるまで放射性核種を除去できていない水。今後、多核種除去設備等にて再度処理される。

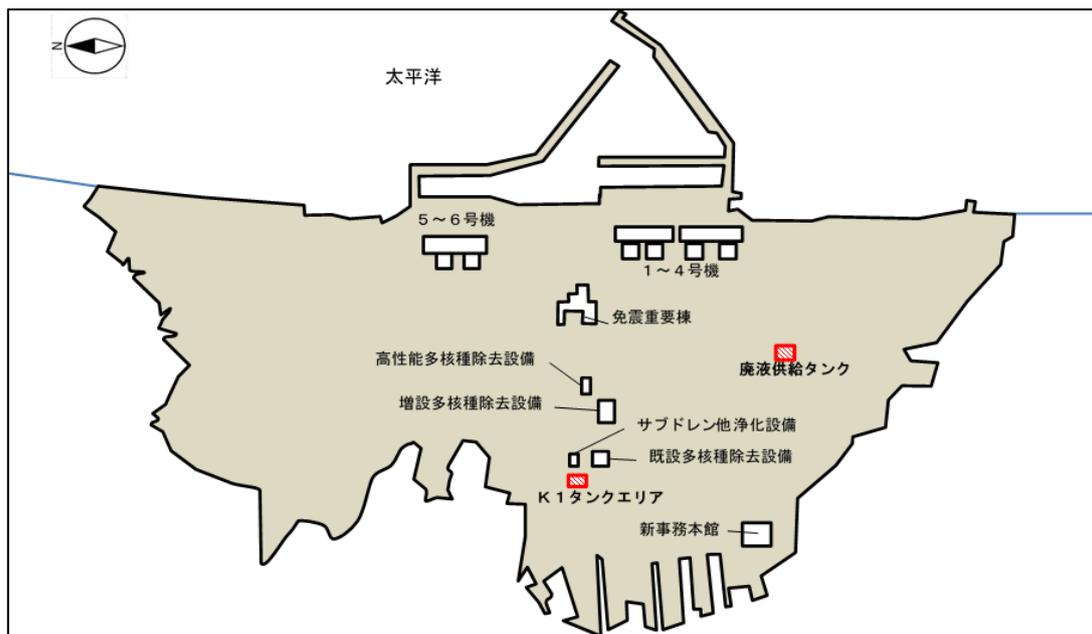


図1 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)
仮設ホースの敷設状況 (K1
タンクエリア堰内)
タンクとの接続部



(写真1-2)
ポンプの設置状況 (K1タンク
エリア堰内)



(写真 2 - 1)
既設移送配管と仮設ホースの
接続部の状況
(J2タンクエリア北側)



(写真 2 - 1)
仮設ホースの敷設状況 (J2 タ
ンクエリア北側)



(写真 2 - 2)
仮設ホースの敷設状況 (廃液
供給タンク近傍)



(写真 3 - 1)
接続部下部の受けパンの設置
状況
雨水浸入防止のためにシート
で養生されている



(写真 3 - 2)
漏えい検知器

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。